

田中康夫です。

今国会最終日の明日 8 月 31 日（水）14 時から、衆議院第 2 議員会館地階第 6 会議室で、「日本を根っこから変える保守の会」設立総会が開かれます。

何故か日本では、「日の丸・君が代・靖国神社」の三題噺＝「保守のアイコン」との“美しき誤解”が流布しています。

が、「保守」とは本来、家族や集落や地域に根差した、優れて弁証法的な叡智の筈です。視野狭窄なイデオロギー的セクショナリズムを超えた存在なのです。

既に破綻した計画経済的な社会主義、その後に隆盛を極めるも今や失速した数値至上命令な新自由主義経済。その何れの心智＝メンタリティも「科学を信じて・技術を疑わぬ」無謬性の世界だったとするなら、「科学を用いて・技術を超える」可謬性の世界に生きる事こそ、真っ当な保守主義の心智＝メンタリティなのだ、と僕は考えます。

18 世紀に活躍した著述家にして政治家のエドマンド・バークは、「フランス革命などクソ食らえ」と述べました。その一点を以て日本では、「保守主義の父」と崇め奉られています。けれども、彼の真意は、以下の具合だったのです。真っ当に働き・学び・暮らす市井の人々が、“ノブレス・オブリージュ”の気概も覚悟も持ち合わせぬ“駄獣の群”な政治家や企業家に義憤を感じて蜂起する前に、「人々の革命への要求を先取りするような、その結果、人々が革命など必要としなくなるような賢明な政治」こそが「真の保守」なのだ、と。

それは、私も呼び掛け人の 1 人として加わる「日本を根っこから変える保守の会」の精神でもあります。

お忙しい中、誠に恐縮ですが、設立総会に足をお運び頂きたく、御案内申し上げます。詳しくは別紙を御参照下さい。